

花鳥風月・短歌

十月の太鼓の響きは秋祭り

リズムにも乗り盛り上げる声

守谷肇

人間はいつか死ぬのだ妻の声

どちらが先に行くわからず

曾我部福石

山すすき夕光ありて透きいるも

野辺の冴風心にしみる

塗堀良子

すばらしい朝の雲海見渡せば

下界の雑踏しばし忘れる

佐伯定則

盟友の訃報届きて挙手す

皇帝ダリア夕空に映え

小林 泰子

秋の雲いわし雲なりうろこ雲

ひつじ雲ハテ秋の季語なり

石井 トシ子

我が息子勤労感謝の日も仕事

などと笑顔で荷物を担ぐ

火鉢へと手を炙りつつ古書店の

おやじの指示は奥の二段目

小田 慶喜

平和など話さないのか神の旅

人間たちの悪行を無視

日短に追はれるやうに人々は

早足となる駅前通り

小田和子

あゝダメだ咳と鼻水止まらない

コロナ或いはインフルエンザ

春夏秋冬の味覚はまだかしら

わがものの顔の夏が居座る

徳永誠一